清華苑 ｜ 法人広報誌「はな華」

HanaHana

2026

法人広報誌「HanaHana はな華」は、今年度より年1回の発行となりました。
これからも本誌を通じて、三幸福祉会の取り組みを、より身近に分かりやすくお届けしてまいります。
引き続きご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。

HanaHana

清華苑

HanaHana はな華 2026 2026年5月15日発行 編集:SEIKAEN Design Lab 発行人:池田ひとみ
社会福祉法人 三幸福祉会 〒674-0051 明石市大久保町大窪3104-1 TEL 078-934-0800 https://seikaen.jp/

表紙の写真

令和7年9月21日に清華苑養力センターで開催されたシニアファッションショーでの一コマ。ランウェイを9名のご利用者が笑顔で歩きました。

令和8年度は、8名の新入職員が入職しました。

変わるもの、変わらないもの
ICTと人の温もりの調和をめざして

理事長　池田　ひとみ

若葉の頃、皆様には変わりなくお過ごしのことと存じます。日頃より当法人の運営に深いご理解と温かいご支援を承り心より御礼申し上げます。

昨年度を振り返りますと、社会情勢がめまぐるしく変化し、介護の現場も人材不足、人件費や物価の高騰に翻弄された1年でした。ただ、そのような状況の中でも職員ひとりひとりが考え、力を合わせてご利用者の安心安全のために奮闘してくれたと感じています。

また、介護の世界にもデジタル化の波が押し寄せ、当法人でもICTの導入や活用に取り組んでいます。

これはこれからの介護職の人材不足を念頭に、記録や情報共有の負担軽減を目的としていますが、ご利用者や地域の皆様の中には「機械任せにならないか」や「温かい人の手が減るのではないか」など不安に感じられる方もいらっしゃると思います。

私たちは、ICTを人の代わりにするのではなく、それによってご利用者の安全をさらに向上させ、また、ご利用者と向き合う時間を確保するための環境づくりだと思っています。

ご利用者が必要なときにすぐに駆けつけ、安心していただくもの、ICTは効率化だけでなく、介護の質をより高め職員の育成にもつながるものととらえています。

とはいえ、やはり私たち介護の世界で働く者は機械ではとらえることのできないちょっとしたご利用者の体調や気持ちの変化を感じなければなりません。そのためにはこれまで通り日々の声かけやふれあいを何よりも大切にするようにしていきたいと思っています。

今年度は、ICTの活用をより深化させ、人の温もりとの両立を大切にしながらご利用者の安心安全を守り、ご家族や地域の皆様にひきつづきこの大久保に当法人があることによって安心を感じていただきたいと思っています。また、職員が安心して働き、より成長できる環境づくりを進め、次世代の職員の育成に努めていきます。

今年度もともに歩んで行けますよう、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和7年度の清華苑ニュース

ショート動画がW受賞！

厚生労働省の「令和７年度介護のしごと魅力発信等事業(情報発信事業)」として採択された『KAIGO LEADERS SCHOOL』のSNS講座を法人広報統括部長が４ヵ月間受講しました。最終課題として制作したショート動画が、全国の受講生の中から、「社会の広告社賞」および「みんなが選ぶショート動画部門賞」の見事２部門に選ばれました！

C−1優秀賞受賞！

兵庫県福祉センターにおいて、介護福祉士会主催の「第14回C−1グランプリ事例コンテスト」が開催されました。今年は老人保健施設清華苑養力センターの発表事例が見事「優秀賞」を受賞いたしました。本コンテストへの応募は、本年で10年目を迎えます。近年は毎年表彰をいただく等、継続的な取り組みの成果が実を結んでおります♡

近畿大会出場！

令和7年7月　近畿老人福祉施設研究協議会和歌山大会に特別養護老人ホーム　清華苑の介護福祉士2名が兵庫県代表として登壇しました。テーマは「現場が変わった！多角的介護DXの挑戦記」です。兵庫県代表として近畿大会で事例発表をするのは今回でなんと3年連続となりました！

FM軽井沢の「軽井沢ラジオ大学」に法人理事長と統括部長が出演しました。下記の二次元コードよりお聞きできます。

自治体や地域と繋がる

清華苑は、兵庫県から認定を受けている「地域サポート施設」です。(社会福祉法人が地域住民向けの支援活動を行っている場合に認定されます)

清華苑ふくし相談センターを中心に、健康教室や介護予防講座、地域交流イベントなど展開しており、令和7年度は、延べ1000人以上の地域の皆さまにご参加いただきました。

また、明石市の「SDGsパートナーズ」(SDGs未来都市・明石を実現するためのネットワークとしてつくられた制度)としても活動を進め、地域の多様な事業者と連携しながら持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

そして、明石市が推進する共創プラットフォームにも参画し、福祉分野に限らず、企業や団体など多分野の事業所と連携した新たな企画づくりが進んでいます。これから具体的な取り組みが形になっていく予定ですので、ぜひご期待ください。

学校との連携が拡大中

将来を担う子どもや若者への学びの機会づくりに力を入れており、施設で働く介護職員が講師を勤め、学校のクラスで出前授業を行っています。

毎年、出前講座を実施している明石市立魚住東中学校では、5クラス分の出前授業を担当しました。生徒の皆さんにも関心を持ってもらうことができました。

この他、兵庫県立明石南高校での授業をはじめ、学校からの講師派遣依頼は年々増えています。さらに、令和8年度からは明石市立明石商業高校福祉科との交流事業もスタートしました。加えて、神戸学院大学社会リハビリテーション学科との連携企画も進んでいます。

これからも学校との連携を深め、一人でも多くの若者が福祉に関心を寄せる社会となるよう福祉の仕事の魅力を伝えていきます。

サークル活動が盛況です

各サークルの活動が盛んに行われています。

ランニングサークルは、地域のリレーマラソン大会に出場し、冷たい雪が舞うコンディションの中、互いに声を掛け合いながら、チームワークで無事完走しました。

音楽サークルでは、法人内の各施設でご利用者向けの演奏会を開催し、ご利用者や職員の皆様に楽しいひとときを届けてくれました。

サークル活動は、単なる趣味の集まり以上にスタッフ間のコミュニケーション向上やストレス軽減やメンタルヘルスの安定にも繋がります。

組織が一丸となり、部署や上下関係の垣根を越える関係性づくりをこれからも大切にしていきます。

新事業がスタートします

令和8年4月より新たに「法人後見事業(清華苑後見支援センター)」を開始いたしました。

「法人後見事業」とは、認知症や障害などにより判断能力が低下した方に代わり、当法人が後見人となって大切な財産の管理や、必要な福祉サービスの手続き等を支援する法的な仕組みです。

後見制度の需要が高まる一方、担い手となる専門職の不足が明石市でも深刻な課題となっています。明石市や社会福祉協議会と連携しながら、この地域課題の解決に立ち上がる決断をいたしました。

例え、判断能力に不安が生じても、住み慣れた地域で尊厳を保ち、ご自身らしく安心して暮らし続けられるよう、皆様の生活と権利を全力でお守りいたします。

清華苑後見支援センター
(清華苑ふくし相談センター内)
住所　明石市大久保町江井島1649−1
TEL　078−938−0770
担当　大中

小規模多機能型居宅介護
大久保苑

心が動く園芸の力
園芸療法士と協力

令和7年度は、特に園芸活動に力を入れて取り組みました。法人内の園芸療法士の協力のもと、花壇や中庭に季節の花々や野菜を植え、ご利用者と職員が一緒に土を耕し、苗植えや水やりを行いました。

初めは作業に不安を示されていたご利用者が、次第に主体的に関わられるようになり、「次は何を植えるの？」と笑顔で話される姿が印象的でした。

かつて園芸を趣味とされていた方が、再び関われる姿にこの取り組みの意義を感じる事もありました。一方で天候や生育状況に左右される難しさもありましたが、収穫の喜びや季節を感じる機会となり、心身の活性化や交流の促進につながっています。

また、見学時に本取り組みを紹介することで、ご利用を検討されている方やご家族の安心や魅力となり、利用選択の一助にもなっていると感じています。

園芸活動は、今後も継続し、ご利用者と共にこの取り組みを育てていきたいと思います。

（管理者　阿部）

グループホーム
清華苑ポートピア

「思いをかたち」に
楽しみ溢れる生活

清華苑ポートピアでは、日常生活の活性化に取り組んできました。

「昔は魚の棚によく行った。明石焼が食べたいな」「スンドゥブが好き」といったご利用者からの何気ない声を形にしたいと考え、「魚の棚パーティー」や「韓国料理パーティー」を企画しました。

会場全体の雰囲気づくりも大切にするため、開催に向けご利用者と一緒に飾りの制作にも力をいれました。魚の棚やスーパーへの買い出し、調理にも参加していただくことで行事を共に作り上げる楽しさをご利用者にも感じて頂けました。また、「ハワイアン夏祭り」など、季節感やテーマを大切にした行事企画にも取り組むことができた1年でした。

ご利用者の思いに寄り添い、その実現に向けて工夫することでご利用者の楽しみや「またやろうね」と前向きな声に繋がっています。

少人数ならではの温かい関わりを大切にし、笑顔あふれる日々をお過ごしいただけるよう、ご利用者の生活を支えてまいります。

（管理者　岡本）

グループホーム
清華苑

明石城西高校との交流
吟剣詩舞

令和7年5月、明石城西高校吟剣詩舞部の生徒さんをお招きし、鑑賞会と交流の機会を持ちました。

「吟剣詩舞」とは、吟詠に合わせて剣舞や詩舞を披露する伝統芸能の総称です。

ご利用者の皆さんは、剣舞の迫力に圧倒されるとともに、詩舞の優雅で美しい所作に感動されていました。

交流会では、職員が生徒さんとご利用者との間に入らなくても自然と会話が弾み、涙を流して喜ばれるご利用者もいらっしゃいました。日本舞踊の経験があるご利用者が扇を手に取り、うれしそうにされる場面も見られました。

明石城西高校の先生からは、「吟剣詩舞を広く知ってもらう良い機会になる。近くの高校として地域貢献につながればうれしい」とお言葉をいただきました。

今回の交流が、生徒の皆さんにご利用者のことを知っていただき、高齢者への関心を深めるきっかけになればうれしく思います。

今後も地域と繋がる交流行事を継続していきたいと考えています。

（管理者　大久保）

ケアハウス
清華苑シルバーライフ

「参加したくなる時間」が
人を元気にする

ケアハウスでは、年間200回以上のイベント開催を目標に掲げています。

令和7年度は、朝から外出行事を実施した「モーニングカフェ」、マイクロバスをチャーターした「ながさわランチツアー」、外出できない方も苑内でも楽しめる「餃子パーティー」、「ステーキ弁当セレクトランチ会」、日々の体力維持を目的とした「健康教室」、入居者間交流を目的とした「華倶楽部」、月1回定期開催の「手作りアートの会」など企画し、年間で延べ205回実施しました。

しかし、私たちが大切にしているのは、その“数”だけではありません。ご利用者が「参加してみたい」「関わりたい」と思える時間や環境づくりを大切にしています。

ご利用者自身が人とつながりや役割などを感じられるひとときこそが、日々の元気の源になると考えています。

イベント開催がそのきっかけとなり、生活意欲の向上に繋げていくことをゴールとしています。次年度の活動もどうぞお楽しみになさって下さい！

（生活相談員　村上）

老人保健施設
清華苑養力センター

認知症チームケアによる
ケア対応力の強化

清華苑養力センターでは、新たに「認知症チームケア」を立ち上げました。

「認知症チームケア」では、日々ご利用者との関わりの中で得られる小さな気づきや発見を多職種で共有し、ご利用者一人ひとりに対する対応の方向性を統一する体制づくりを進めてきました。

具体的には、介護職による日常場面での観察をもとに、看護職が体調や薬剤の影響を踏まえた評価を行い、医師による調整へとつなげるほか、リハビリ職による身体・精神両面への働きかけを組み合わせています。

その中で、不安そうな表情が和らぎ穏やかに過ごされる時間や、声かけに自然と応じていただける場面が増えるなど、関わりの積み重ねが安心につながっていることを実感しています。

今後も現場での実践を軸に多職種連携を深め、ご利用者の日々の安心につながるケアの質向上に努めてまいります。

（介護員　池内）

特別養護老人ホーム
清華苑

「ご利用者の声を形に」
心躍る取り組み

令和7年度は、「ご利用者の声」を形にする取り組みに注力しました。

4月の「観桜会」では念願の外出行事を再開し、近隣の公園で春を満喫。ご家族からも満開の桜と笑顔の写真を見ていただき好評を得ることができました。

10月の「喫茶外出」では、喫茶店のカステラを前に皆様の目の輝きが増し、どこか懐かしい味に胸を躍らせる姿や弾む会話が印象的でした。また、ご利用者の要望から職員が共に声をあげて実現した「園芸レク」では、苗を植え、交代で水やりをするなど植物を育てるバトンが季節ごとに繋がっています。

これらの活動を通じ、外出や交流がもたらす喜びが生活の活力に繋がることを再確認しました。今後も生活の中のほっとできる瞬間を、ご利用者、ご家族、そして職員と共に見つけ出していきます。

そして、皆様の想いに寄り添い、その方らしい生活を支える支援を継続して参ります。

（生活相談員　北野）

総合相談窓口
清華苑ふくし相談センター

買い物ついでに立ち寄れる
身近な相談先

清華苑ふくし相談センターでは、認知症や介護について気軽に語り合える「みっくすカフェ」を令和7年4月よりイオン明石で開催しています。

買い物のついでに立ち寄れる身近な場として、専門職がそばにいる安心感の中、気軽に相談できる環境づくりを行っています。同じ立場の方同士が自然につながり、思いを分かち合うことで、悩みを一人で抱え込まない支え合いの場となっています。

みっくすカフェは、毎月第3水曜日に開催し、月平均16名が参加されています。多様な方が集い、地域の中で認知症への理解も広がっています。「同じ悩みを持つ人に出会えて安心した」という声が少しずつ増え、地域のつながりが温かく広がっていることを感じています。

これからも誰もが安心して語り合える居場所として大切に育んでまいります。

（介護支援専門員　森下）

居宅介護支援
清華苑ケガイドステーションⅠ・Ⅲ

地域とともに歩む
居宅介護支援の取り組み

令和7年度、ケアガイドステーションⅢの管理者が明石市居宅介護支援部会の会長を務め、明石市介護サービス事業者連絡会の運営委員として活動しました。

明石市内の福祉専門職のスキルアップを目的とした研修会の実施や、ケアマネジャー同士の交流会を企画・開催し、日々の実践や課題を共有する機会づくりに取り組みました。医療・福祉に関する各種会議や研修にも法人代表として参画し、地域の関係機関との連携強化にも努めました。

こうした活動を通して得られた知識や経験は、ケアガイドステーションⅠとⅢの両事業所で共有しながら、日々の支援に活かしています。

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域全体で支え合う力を高めながら、今後も地域に根ざした活動に取り組んでまいります。

（介護支援専門員　斧）

訪問リハビリ
清華苑の訪問リハビリ

燕尾服でランウェイ
97歳の挑戦記

清華苑養力センターで開催したシニアファッションショーに参加されたA様。約40年間社交ダンスに打ち込まれていましたが、2年前に大腿骨を骨折。伝い歩きがやっとのご状態でしたが、レッドカーペットを美しく堂々と歩き切ることを目標としました。

訪問リハビリでは、下肢筋力を保つために膝の伸展運動やつま先立ちの練習を行い、立ち姿を美しく保つために体幹の筋力強化を行いました。

そしてショー当日、社交ダンスの正装、黒い燕尾服に白のドレスシャツで臨みました。

お孫様の手を借り、ランウェイを優雅に堂々と進む姿、観客に向けた笑顔、苦労を力に変え、A様の表情は矜持に満ちあふれていました。

理学療法士として、身体機能の先にある「人生の厚み」に寄り添えたことを誇りに思います。

（理学療法士　神木）

訪問介護
清華苑ホームヘルプステーション

自費ヘルパーで叶える
「自分らしい暮らし」

令和７年度、当事業所では新たに「自費ヘルパーサービス」を創設しました。

公的介護保険制度では対応が難しい家事代行や外出支援など、ご利用者の個別ニーズに柔軟に応えることが目的です。制度設計を進め、構想から半年を経てようやく形にすることができました。

初めて自費サービスをご利用されるA様は、「買い物が終わってから、その後のティータイムも楽しみたい」というご希望を持たれています。ニーズは人それぞれ。如何に対応できるか。制度の枠にとらわれない柔軟な支援こそが、ご利用者の QOL 向上に直結すると確信しています。

今後も多様化するニーズを真摯に受け止め、一人ひとりの「やりたい」を形にできるよう、地域に根差した支援を展開してまいります。

（管理者　荒川）

通所リハビリ
清華苑すいすい

笑顔を引き出す取り組み
サービスの在り方を考える

コロナ禍以降、感染症対策の影響により、これまで当たり前に行えていたイベントの中止や縮小が余儀なくされました。ご利用者に楽しみの機会を十分に提供できない状況が続き、私たち職員自身も大きなもどかしさを感じていました。

改めて「私たちが目指す通所サービスとは何か」を深く考える機会となりました。ご利用者にとって、事業所で過ごす時間はかけがえのない大切なひととき。その時間を「楽しい！」「また来たい！」と心から感じていただきたい。それこそが変わることのない私達の想いです。

現在では、調理部門と連携し、「天ぷらパーティー」「秋祭り」「練りきり作り」「鍋パーティー」「選択食メニュー」など、五感で楽しんでいただける多彩なイベントを実施しています。

これからも、リハビリテーションの充実はもちろんのこと、「通うこと自体が楽しみになる場所」であり続けるために、行事や取り組みの幅をさらに広げてまいります。ご利用者一人ひとりの笑顔と生きがいにつながる通所サービスを目指し、職員一同、これからも挑戦を続けていきます。

（介護員　鎌田）

通所介護
清華苑デイサービスセンター

地域と繋がる
外出支援の取り組み

令和7年度のテーマは、「ご利用者の皆さまに外出の楽しさを感じていただこう！」

地域とのつながりを深めることを目的に、ランチ外出を年2回、喫茶外出を毎月実施する目標を立てました。

明石市内、稲美町や神戸市西区などの飲食店を訪れ、この1年間で参加されたデイサービスのご利用者は、延べ398 名となりました。

地域でご生活されている方であっても、体力面などの不安から外出の機会が少なくなることがあります。

そのため安心して外出できる機会をつくり、地域へ出るきっかけとなるようにこの取り組みを始めました。

喫茶外出では、職員が毎月行き先を考え、季節の花を見に行くなど、外出そのものを楽しんでいただけるよう工夫して企画しています。

今後も地域との関わりを大切にしながら支援を続けていきます。

（生活相談員　藤原）